



Hiroshi Sato 秋田市出身 31歳

秋田県立大学を第一期生として卒業(経営システム工学専攻)。「積水ハウスの得意分野は何ですか?」と聞かれると「全部得意です」と答えるほど、いつも自社製品に誇りを持っています。趣味はたけのこ探り。秘密スポット知っています。

生活リテラシーシリーズ

vol.11 ● 秋田市広面 T様邸

*literacy
「生活リテラシー」は暮らしと住まいをより豊かにする力・才能を意味します。

機能性はもちろん、デザイン性の高い バリアフリー住宅を建てたい それが家族の愛情でした

ご主人が病に倒れ入院。T様ご夫妻は病床で新しい家の建築構想を練りながら、それを支えに闘病生活を乗り切ったそうです。子どもたちも独立し、これからは夫婦二人きりの暮らし。便利な平屋建てを選択されました。安全でオシャレな家を目指して家族それぞれがアイデアを出し合ったバリアフリー住宅の登場です。

POINT 1
「お気に入りのキッチンには自然と家族が集まります」と語るT様。キッチンはアイランド型。テーブルをすぐ脇に置いたので無駄な動線がなく食事の準備もスムーズにできます。



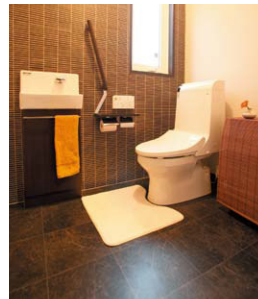
POINT 2
ダイニング・和室・キッチンの間は短い動線で動けるように設計。特に壁を設けず部屋と部屋の間引き戸を採用して空間に広がりをもたせました。更に手持ちの家具との配色が生きるよう内装のカラーリングは控えめに。こだわりの新旧コラボが実現したリビングです。



POINT 3
息子さんのアイデアで和室は開放的なつくり。アールのカーブを取り入れた床の間は隣のリビングともしっかり馴染みます。「とにかく両親が住みよい家になるように」との息子さんからのご要望で、設計から配色・備品の購入までインテリアコーディネーターとの打ち合わせも念入りに行われました。



POINT 4
ここは構造上、壁になる部分でしたが、雰囲気が重くならないように中を取り除き棚を作成。手作りの焼きもののコーヒーカップを思い出と一緒に収納しています。



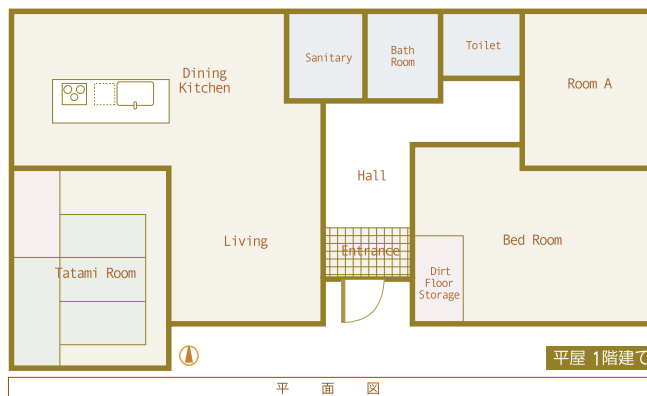
POINT 5
黒タイルを壁一面に貼ったモダンシックなトイレインテリア。広々としたバリアフリー設計にも美しさを重要視しました。



もともとは亡くなったお祖母さまがお住まいだった土地に家を建てられたT様。庭にはお祖母さまが手水鉢に見たて愛用していたという貴重な石臼があり、趣きを加えています。



太陽光発電一体型の屋根(写真左側)はシンプルでかつ機能性にも優れています。



最近家族の一員となった愛犬ひまりちゃん、しゅっちゃん顔を見せる佐藤さんのことを家族の一員だと思っているかもしれません。

秋田支店へ行って聞いてみよう!

「一期一会を大切に、一生のお付き合いを」の想いで
秋田支店・シャウッド展示場で皆様のお越しをお待ちしております。

●お問い合わせ先



積水ハウス株式会社

国土交通大臣免許(13)第540号 国土交通大臣許可(特-17)第5295号
(社)不動産協会会員 (社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

www.sekisuihouse.co.jp

0120-35-6901

www.sekisuihouse.co.jp

